

排煙脱硫装置がふえる

大勝製紙や日産自動車にも

重油の燃焼にともなつて発生するイオウ化合物やその他の汚染物質は、大気汚染の主要原因となつて、私たちの健康をおびやかしています。

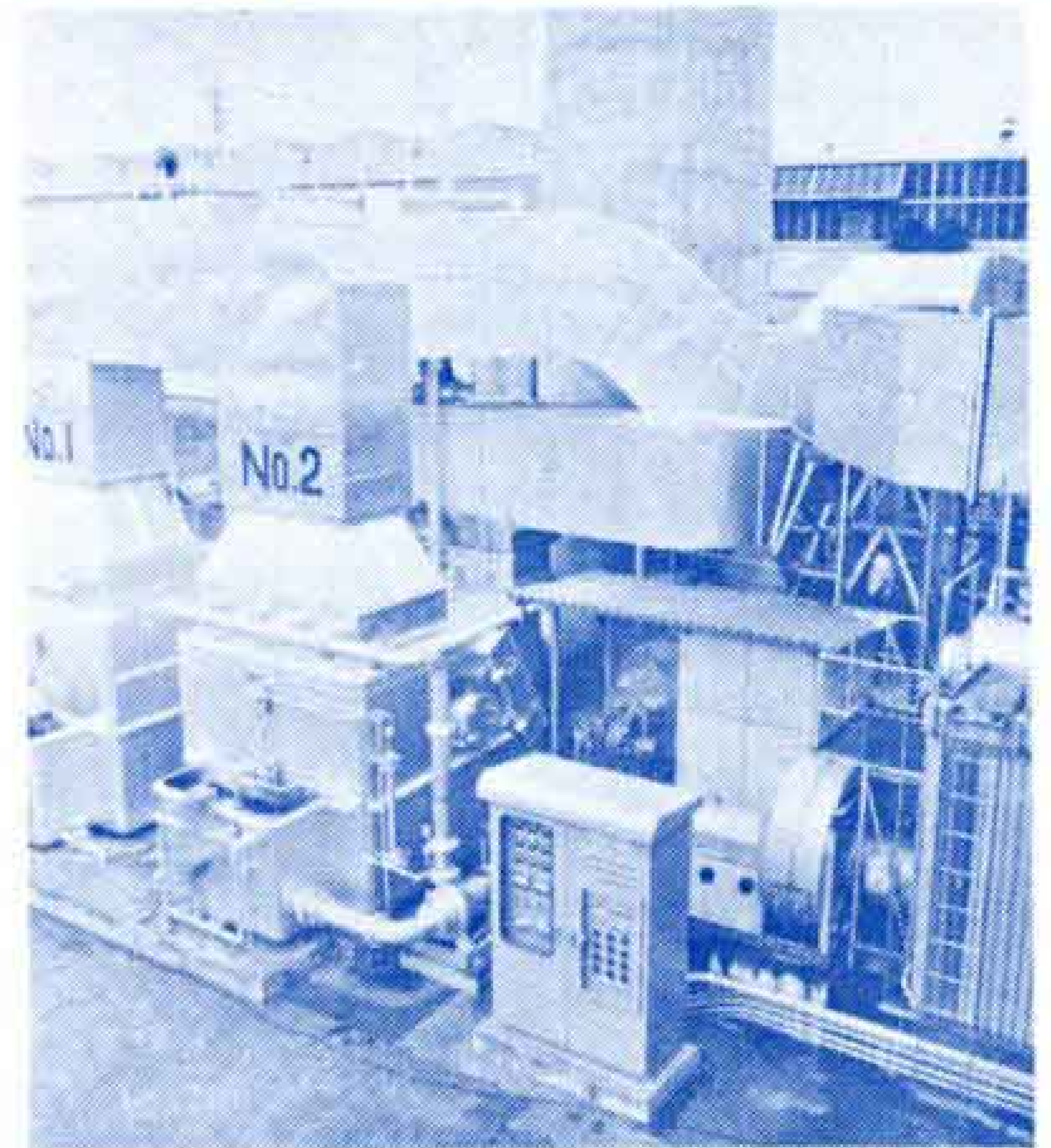
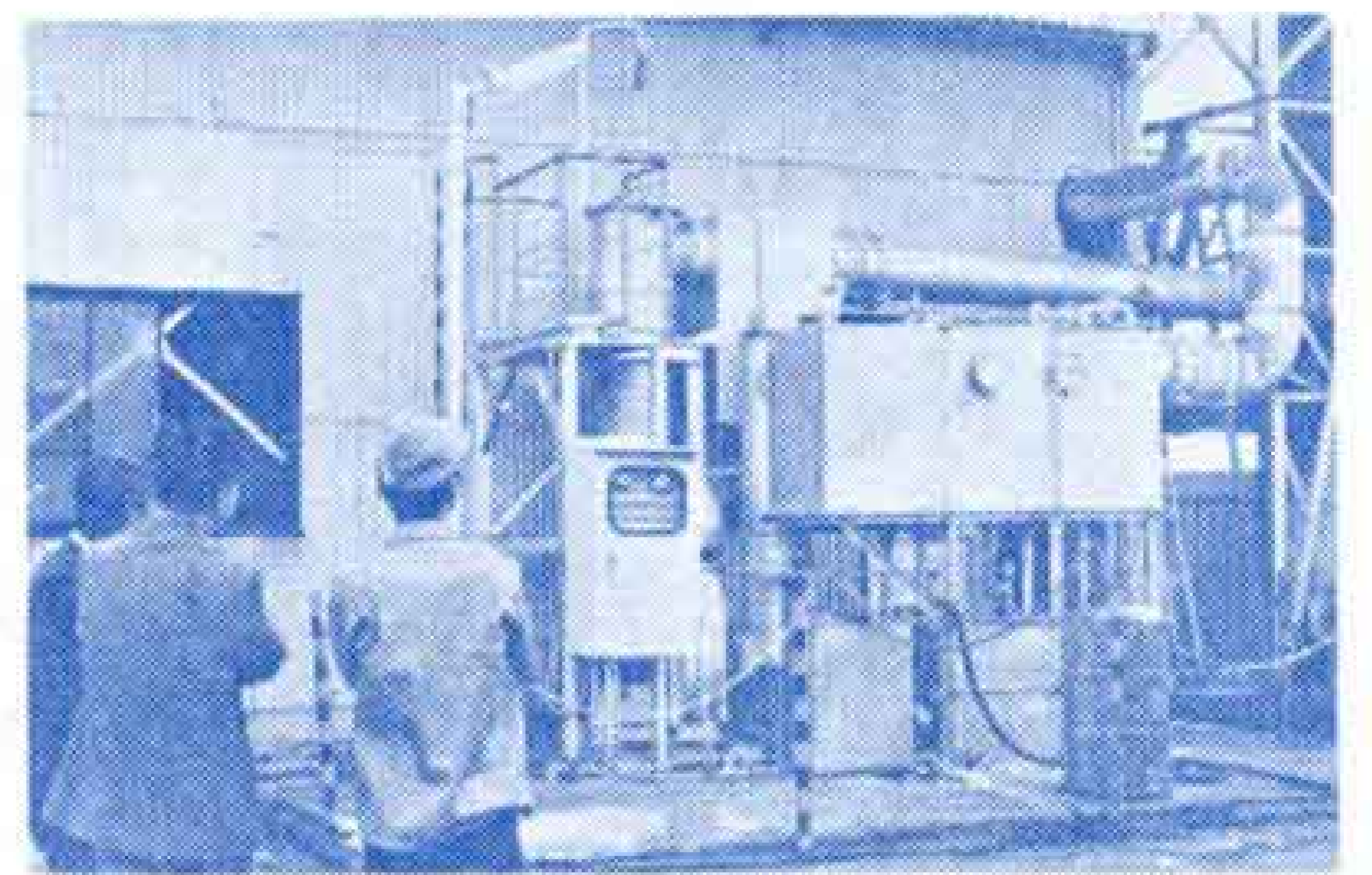
このため市は、昨年公害対策審議会を発足させ、富士市が将来どんな公害対策をするべきか諮問しました。この答申を4月に受けましたが、おもな内容は国の環境基準0.05 P P m (年平均1時間値)を達成しても十分とはいえないので、富士市の現状から、目標値は0.03 P P m以下にすることが望ましい、そのためには排出される汚染物質の総排出量を削減すべきであるとされています。

そこで、この答申に基づいて、市は削減計画をつくつていますが、大気汚染を防ぐには、良質な燃料を使うとか、拡散

効果をあげるなどいろいろな方法があります。排煙中の汚染物質を取り除く脱硫装置もそのひとつです。さいきんは技術開発もすすみ、各企業でも実用化されています。

大型ボイラーでは、大昭和製紙(株)吉永工場や鈴川工場、小型では富久興製紙(1部脱硫)などですすでに稼働しています。これに大勝製紙(株)、日産自動車(株)吉原工場第2地区の2工場が、全量排ガスの脱硫装置を完成させ仲間入りをしました

この2工場は、排ガスを可性ソーダ液に吸収させ、亜硫酸ガス、ばいじん、その他の汚染物質を取り除く方法で、市の調査でも十分な効果があり、大気汚染防止に大いに役立つ施設です。



【写真は、大勝製紙・下は日産自動車の排煙脱硫装置】



【とかく発見しにくい聴力の測定などを行なっています=富士第1小で=】

日赤の社員になろう

日本赤十字社は、一定の社費を納める社員によつて組織された特殊法人で、自分を含む地域社会の幸福を願う人々の集まりです。赤十字は人道のかけ橋、をことしの標語に日赤の社員は、血液事業、医療事業、災害救助などの奉仕活動のほかに、赤十字奉仕団、青少年赤十字(JRC)の組織づくりや、看護婦養成、三大講習(家庭看護法、水上安全法、救急法)なども行なつています。

このような組織の中に、わたしたちの町の日赤富士市地区があります。日赤富士市地区は、今年の事業計画として、市内の小学校1年生の血液型判定と、小学校4年生の学童集団聴力測定を行なつているほかに、

火災などの災害にあわれた人に、毛布や日用品セットなどを贈つています。市民の中に1人でも不幸な人がいないように、そんな願いをこめて、いつもみなさんのそばで幅広い活動をしています。

なお、日赤富士市地区は1世帯1人以上の社員を目標に、今年も5月を社員増強月間に定めて運動してきました。しかし、社員数は32,618人でまだまだ目標には足りません。運動期間以外でも、いつでも社員になることはできますから、運動の主旨を理解して、ひとりでも多く加入してください。申込みの受付は、福祉事務所社会課で行なつています。

件数 218件
(5月までに1116件)
死者 3人
(5月までに15人)
負傷者 120人
(5月までに558人)



六月の火災件数 交通事故



4件発生
(5月までに40件)
損害額 623万円
(5月までに2964万円)
死者 1人 傷者 0
(5月までに死者1人 負傷者5人)